

ゆめサロシ

便
行

令和 4年
7月19日
吉賀町ゆめサロン
N-519

花たち



皆様
お変わりあり
ませんか

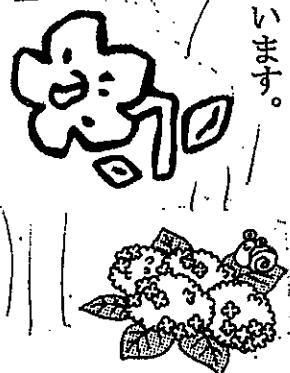
んだ声でこの山里をうるおす頃

となりました。これを聞くと一日の疲れは取れてほっとし、リセットされた気分になります。

コロナは一向に収まる気配はない
なくむしろ吉賀町にまではいつ
てきたニュースを聞くと不安になり十六日の定例会も休ませて

頂きました、余眞さんの中には
「いつのこととしばらく休んだ
ほうがいいのでは」という意
見を下さるかたもあります。
コロナに負けず皆様お元気で
お過ぎしくださいませ。

萬本齋



梅雨があつけなく終わり夏がやつてきたのですが季節の花はそ
うはいきません。アジサイの花盛りは終わることなく黒ホウズキ
やカサブランカと言う百合たちと同居して咲き誇っています。
そんな中でカナカナ蝉が夏を謳歌しています。

今日は海の日ですが今にも雨が降つて来そなうなどんよりとしましたお天氣です。三十年近く前に娘が里帰り出産で連れて帰省して、いた当時二歳だった子が、嫁さんと私達のひ孫を連れて名古屋から先日二泊三日でやつて来ました。そのころより何もかも小さく見えたことでしょう。魚釣りや川遊びなど当時を再現したいらし

博山家廟



く落ち着かぬ様子でしたが、まあ今日は下見ということでした

よう、乗つて来たスポーツカーで帰つていきましたが自然の中にどっぷりつかつてゐる爺婆をみてどう思つたかきいてみたいのです。そういえば来るとすぐにトカゲが出てきたのを追いかけまわしていました。話している時いきなり、

六



「虫取り網はどこにある?」つ
と言つていました。が爺婆がそ
んなもん持つてゐるはずはな
いけど多分三十年前の記憶が
頭のなかに蘇つてくるのでし
ょう。充実した三日間はあつと
いう間に過ぎました。今度やつ
て来る時は爺婆のどちらかが
いないかも、とそつと考へなが
らこの子たちの幸せ祈る爺と
婆でした。緑の中で・・・

An illustration of a simple, round face with a wide, open-mouthed smile. Above the head is a thought bubble containing the Japanese text "やん お久しぶり" (Yan o soshisou), which translates to "Hi again" or "It's been a long time".

した。思ふ由をたどる様に……



三十年前孫がもつて遊んでいたボールがいつの間にかなくなつたようです。うちの庭につつじや沈丁花や満天星つつじを植えて居ましてそこは滅多に草取りなどしません。

今回孫たちが帰るからといつてくさとりをしていましたら出

ゆめサロン

暑い
夏

便り

令和4年
7月28日
吉賀町ゆめサロン
No.520

新型コロナの恐怖から逃れられないまま時は過ぎて行きま皆様お変わりありませんか。テレビをつければコロナ、ウクライナ、安倍前総理の襲撃と目を背けたくなることばかり聞こえています。

安心して生きていいくことのできる世の中が一日も早く来るこ六十キロは早くあるでしょう。4人兄妹の女の子一人なのに送つていく父親の気持ちはさぞ悲しくなっています。新調した着物を着て出かけたのに岩国についたころにはそのすそはすりきれました。暑い夏……。

夏、暑い、夏



たお数珠を見ながら考えていたのはこのお数珠を持っていた私の夫の母、私にとつては姑の一生のことでした。

小学校を卒業してから、自分の

両親だったというのです。昭和の

私が生まる前日に盧溝橋事

件いわゆるシナ事変が勃発し

たため看護婦の免許を持つた

彼女にも例外なく召集がかか

り、生まれて僅か五十日の乳飲

み子をおいて佐世保に勤務す

ることになりました。その乳飲

み子が私の夫なのです。口では

簡単に言えますがそんな小さ

な子を預けられた彼女の親も、

置いていく彼女も辛かつたこ

とでしよう。思いを馳せている

うちにお経は終わりお寺の境

内でお経は終わりお寺の境

ました。

昔はクワガタやカブトムシがよく家に飛んできたのに今はそんなこともなくなつたね。とよく聞きます。そういうえばそうだと思いますが考えてみれば今はさつさと戸を閉めてクーラーを入れる生活ですね。夕涼みを近所の方とすることもありないですし生活が変ったということでしょう。今日は開けておこうといふけどいつまで続くかな、すると蜂が入りました

幸い試験は合格し松山の看護学校に入学した彼女は、当時

なりに青春を謳歌したようですね。その後の戦争で二人の兄弟をなくし、彼女は家庭に入り平

穏な生活をしていたのですが夫が生まれる前日に盧溝橋事

件いわゆるシナ事変が勃発し

たため看護婦の免許を持つた

彼女にも例外なく召集がか

り、生まれて僅か五十日の乳飲

み子をおいて佐世保に勤務す

ることになりました。その乳飲

み子が私の夫なのです。口では

簡単に言えますがそんな小さ

な子を預けられた彼女の親も、

置いていく彼女も辛かつたこ

とでしよう。思いを馳せている

うちにお経は終わりお寺の境

内でお経は終わりお寺の境

ました。

昔はクワガタやカブトムシがよく家に飛んできたのに今はそんなこともなくなつたね。とよく聞きます。そういうえばそうだと思いますが考えてみれば今はさつさと戸を閉めてクーラーを入れる生活ですね。夕涼みを近所の方とすることもありないですし生活が変ったということでしょう。今日は開けておこうといふけどいつまで続くかな、すると蜂が入りました

よつばと

涼

これは近所の工場の前庭の土手にようことと草をかりのこしてあるのです。

炎天下環境整備の係りのかたでようか花の手入れをしておられることさえ感心していますがさぞ暑い事だろうと頭が下がる矢先のことでした。それに元気を貰いプランターの小さな草をとる私です。

今と昔の
うかい



暑い夏……。

